

宮本徹・大西克也編『アジアと漢字文化』（放送大學教育振興會、二〇〇九年）

この書籍の特徴は『アジアと漢字文化』と、タイトルに「アジア」という言葉が入り、漢字を広くアジア全體が共有するものにとらえることにある。まず目次を要約してあげる。

- 一 漢字の誕生―骨と甲羅に刻まれた文字―（甲骨文字概説）
- 二 漢字の起源―甲骨文字のしくみと陶文―（甲骨文字の解讀方法・特徴・甲骨文字以前の「文字」と漢字の起源）
- 三 青銅器に鑄込まれた漢字―金文の誕生と展開―（青銅器文化の發達・金文の特徴）
- 四 多様化する漢字―戰國時代の文字―（漢字の廣がり・戰國文字概観）
- 五 屈原の書いた漢字―戰國時代の楚の言語表記システムと國ごとの違い―（楚簡の世界・戰國文字鳥瞰）
- 六 隸書の誕生と文字統一―古代文字の終焉―（隸書の成立・文字統一）
- 七 漢字の完成―楷書の誕生と規範化―（隸書の變容と楷書の誕生・發展）
- 八 字書の變遷―漢字史からみた字書―（字書の起源・『說文解字』・楷書と字書）
- 九 漢字と漢字音（漢字の表音的要素・中國語原音の歴史的變化・反切と韻書・日本漢字音）
- 一〇 漢字と近代化（漢字・この遅れたもの―魯迅「門外文談」・「表音化」と「簡略化」・「改革」の果てに）

一 漢字と「漢字系文字」（「漢字系文字」とは何か・分類・形成過程と使われ方）

二 韓國・朝鮮の漢字（ハングル以前の漢字・ハングル創制と漢字・開化期から現代の漢字の使用）

三 日本語と漢字（一）（漢字の傳來・應用）

四 日本語と漢字（二）（漢字漢語の日本的變化・現代における日中漢字の異同）

五 アジアの言語と漢字―漢字の受容によるアジア諸言語の變容―（漢字の移入がもたらした各言語への影響・言語と文字）

一から七までは漢字の歴史的展開である。甲骨文、陶文、金文、隸書と紹介し、七「漢字の完成」の楷書をもってしめくくる。八は字書、

ここまで、戰國時代の文字に關する論考などのある大西克也氏が擔當している。九は漢字音について、一〇は一轉して、漢字の近代化の話となる。この二つを宮本徹氏が執筆。そのあとの一一は、ベトナムの漢字などの研究者、岩月純一氏による「漢字と『漢字系文字』」。漢字系文字は、中國西北部の「疑似漢字（契丹文字・女真文字・西夏文字）」と東南部の「派生漢字」に分けられている。一二「韓國・朝鮮の漢字」は、朝鮮語の研究者、福井玲氏による、漢字とハングルについて。

一三・一四は『和製漢語の形成とその展開』の著書のある陳力衛氏による「日本語と漢字（一）（二）」である。中國人がみた日本の漢字受容とその展開ということになる。一五「アジアの言語と漢字」は、宮本徹編となっているが、各項目の擔當者がそれぞれ分擔して執筆している。放送大學の教材として編まれているため、全一五回に分かれている。（大形徹）